日本の夜と霧（1960）

メディア 映画
ジャンル 青春　ドラマ
製作国　日本
色彩　Color
時間　107分
初公開日 1960/10/09

【解説】
　大島渚が石堂淑朗とともに書いたシナリオを監督。安保闘争や学生運動を描き、公開四日目にして上映打ち切りとなった問題作。大島渚はこの作品がきっかけで松竹を退社した。
　安保闘争で結ばれた野沢と玲子の結婚式。二人はかつて学生運動で戦っていた。そこへ逮捕状の出ている全学連の太田が乱入し、国会に向かったまま消息を絶った後輩の北見の話を始めた。さらに会場に現れた宅見の口から、自ら命を絶った高尾の過去が告げられる。党からスパイの嫌疑がかけられた高尾は、党の方針転換に抗議すべく自殺したのだった。さらに野沢と、友人の妻の美佐子との関係まで暴露され、玲子は式場を出てしまう。玲子を追って外に出た太田は、その場で刑事たちに取り囲まれた。

【クレジット】
監督　大島渚　　Nagisa Oshima
製作　池田富雄
脚本　大島渚　　Nagisa Oshima
　　石堂淑朗
撮影　川又昂
美術　宇野耕司
音楽　真鍋理一郎
出演　桑野みゆき
　　津川雅彦
　　小山明子
　　渡辺文雄
　　芥川比呂志

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.